

第十章 主力艦

第一節 序 說

各國意見
ノ相違

主力艦ニ關スル各國ノ態度ヲ綜合スルニ米國側ハ日英ノ主張タル艦型、備砲ノ縮小ニ反對ニシテ然モ日英ハ備砲口徑ノ點ニ於テ一致セス一方英米ハ何レモ我方ノ反對スル所タル華府條約所定隻數ノ減少ヲ主張セントスルノ意ヲ仄シ僅ニ艦齡延長ニ於テ日英米三國一九三六年迄ノ代換延長ニ於テ日英米佛伊五國ノ主張一致ヲ見居ルノ狀況ノ下ニ會議開會トナレル處一月二十五日會議事務局ヨリ送付シ來レル會議議題表中ニハ主力艦ニ關スルモノトシテ(イ)一九三五年迄代換ノ延長(ロ)華府條約所定隻數ノ減少(ハ)砲ノ口徑ノ縮小(ニ)艦齡ノ延長(ホ)單艦噸數ノ縮小ヲ舉ケタルモ右ノ中(ロ)ハ及(ホ)ノ三點ニ付テハ今次會議ニ於テハ何等決定ヲ見スシテ終リ(ニ)ノ艦齡延長ニ付テモ後述(第九節參照)ノ如ク佛伊ハ反對シ英米モ進ンテ之ヲ解決セントスルノ意ナキ爲遂ニ之ヲ條約中ニ包含セシムルヲ得ス僅カニ各國ノ主張既ニ一致セル(イ)代換ノ延長ニ付五國間ニ、並ニ二月五日ノ米國試案ヲ實際の出發點トシテ現有主力艦ヲ華府條約協定隻數ニ減少スル件ニ付日英米三國間ニ協定成立ヲ見タルニ過キス

主力艦廢止問題

又主力艦ノ廢止ハ英國側當初ヨリノ希望ニシテ一月二十四日會議事務局總長ヨリ送付越シタル議題表主力艦ノ部ニモ「主力艦廢止問題」ヲ掲ケ(尤モ翌二十五日ノ議題表修正案ニ於テハ本問題ヲ削除セリ)二月七日英首相ヨリ若槻全權宛送付シ來レル英國政府覺書ニ於テモ「主力艦ハ其ノ巨大ナル艦型及經費並ニ空中及水中ニ於ケル攻撃力ノ發達ニ鑑ミ效力疑ハシク政府ハ主力艦カ相當期間内ニ世界ノ艦隊ヨリ全部消滅スルカ如キ協定成立ヲ見シコトヲ希望ス」ル旨ヲ述ヘ伊國政府亦二月十九日ノ「ステートメント」ニ於テ主力艦ノ廢止ヲ考慮スルノ用意アル旨ヲ聲明シタルカ帝國ノ態度ハ訓令ニアル如ク之カ廢止ニ反對ニシテ佛米又同様之ヲ考慮スルノ意ナク結局本問題ハ各國全權間ノ內協議若ハ公式會合ニ於テ討議ヲ

見ルコトナクシテ了レリ

第二節 會議開會前ノ日英交渉

一、一九二九年十二月十九日英提案

一九二九年十二月十九日英提案
國政府提

一九二九年十二月十九日堀參事官佐藤(三郎)島津兩武官英外務省ニ「クレイギー」米國局長ヲ訪問シタル際同入カ主力艦ニ關スル英國政府ノ提案ナリトシテ示セル所左ノ如シ

(イ) 艦型ヲ二萬五千噸ニ縮小ス

(ロ) 艦齡ヲ二十六年ニ延長ス

(ハ) 備砲ヲ十二吋ニ縮小ス

(ニ) 代換第一艦ハ規定通一九三一年ニ起工スルモ以後ノ起工隻數ヲ可成英米毎年一隻日本隔年一隻ニテ足ル様代換期間ヲ延長ス

間ヲ延長ス

(ホ) 現規定ノ隻數ハ動かサス

二、一月六日日英專門家會合

一九二九年一月六日日英專門家會合

我方意見

之ニ對シ一月六日日英專門家會合ノ際(我方左近司、齋藤、中村先方「クレイギー」「フィッシャー」軍令部次長「ベール」大佐出席)我方ヨリ右英國側提案ニ對シ

(イ) 艦型ヲ二萬五千噸程度ニ縮小スルハ可能ナリト認ム

(ロ) 艦齡二十六年ニ付キテハ考慮シ得ヘシ

(ハ) 備砲ノ縮小ハ主義トシテ賛成スルモ列國現存主力艦ヲ考慮スルトキハ十四吋ヲ適當ト認ム

(ニ) 代換第一艦ヲ一九三一年ヨリ起工ノ件ハ艦型縮少ノ結果自ラ計畫ノ大變更ヲ伴ヒ各國共ニ之カ準備ニ相當ノ年月

ヲ要シ事實上實行不可能ナルヘシ

(ホ) 代換期間ノ伸長ハ主義トシテ同意ナルモ艦型及艦齡變更ノ歸着如何ニ依リ其ノ着手期間伸長ノ程度及建造年度割等ヲ考慮シ度意向ナリ

(ヘ) 隻數變更ハ有リ得ヘカラサル事ト思考ス

ト我方意見ヲ開陳スル所アリ

三、一月十三日日英全權會合

一月十三日
日英全
權會合

若槻全權
主張

英國側主
張

若槻全權
主張

越エテ一月十三日若槻財部松平三全權ト「マクドナルド」首相(「クレイギー」同席)トノ會談ニ於テ更ニ主力艦問題討議セラレ(十日我方三全權ト首相トノ會談ニ於テハ首相カ代換開始期ハ英國ニ於テハ決定シ居ラス會議ノ協定ニ依ルヘキモノト考ヘ居レリト述ヘタル外特ニ記述ヲ要スル意見ノ交換ナカリキ)若槻全權ヨリ英國案ノ備砲十二吋ハ急激ニ過クルヲ説キ代換ニ關シ日本ハ五年位ノ延期ヲ可然ト考ヘ居ル旨ヲ述ヘタルニ對シ首相ハ備砲口徑ニ付テハ艦型ト密接ノ關係アリ二萬五千噸ノ戰艦ニハ十二吋以上ヲ搭載スル能ハス日本ノ主張タル十四吋ナラハ三萬噸ヲ必要トスヘク現在ノ制限タル三萬五千噸ニ比シ縮減量少キヲ恨トス代換ニ付テモ英國ハ相當ノ延期ニ贊成ナルモ(此點英國側ノ態度變更ヲ見タリ)日米何レモ英國ヨリモ新艦ヲ保有スル關係ヨリ長キ延期ニハ同意シ難シト答ヘ又隻數減小ニ關シ個人ノ思付トシテ主力艦ハ飛行機及潛水艦ノ脅威ヲ受ケ軍路上其價值ヲ減シ且莫大ノ費用ヲ要スルヲ舉ゲ英海軍中ニハ主力艦時代既ニ去レリトノ意見モ相當アル處假ニ英國保有隻數ヨリ五隻ヲ減シタル場合日本ハ其比率ヲ保ツテ之ヲ低下スルノ意アリヤヲ問ヒ之ニ對シ若槻全權ハ隻數減小ニハ乍遺憾贊成スルヲ得ス華府ニ於ケル五、五、三ノ比率カ日本國民ニ不安ノ念ヲ與ヘタルハ事實ニシテ數量カ大ナル場合ニ於テハ猶防衛ノ見込ナキニ非ルモ其隻數下ルニ於テハ實力ノ比較取レス危險ヲ感スルニ至ルヘク從テ隻數ノ減小ハ國論ノ一致シテ否認スル處ナル旨ヲ述ヘ備砲口徑ニ對シテハ日本側專門家ハ二萬五千噸型ニ十四吋砲ヲ搭載シ得ルコトヲ認メ居ル處右ハ兩國專門家間ニ充分自由ニ意見ノ交換ヲ行ハシムルコトヲ致度

ト答ヘタリ

第三節 會議開會前ノ日米交渉

一九二九年十一月十二日出淵大使「スティムソン」國務長官トノ會見ニ於テ艦型縮小ニハ絶對反對ニシテ艦型ハ華府條約規定通トシ出來得ル限リ關係國保有隻數ヲ減少シタキ意向ナル旨ヲ述ヘ我方ノ意見ヲ求メ之ニ對シ帝國政府ハ出淵大使ニ對シ十二月十一日「主力艦協定隻數ノ減小ハ保有隻數少ナキ國ニ不利ノ結果ヲ齎シ減小ノ程度ニヨリテハ比率改訂ノ必要ヲ生スルニ至ルヘキヲ以テ我方トシテハ右ノ如キ困難ナル問題ヲ伴フ惧ナキ艦型ノ縮小ヲ採用シ度キ意向ナルカ何レニスルモ代換開始期ノ延長ニ付テハ各國共強キ反對無キ模様ナルニ付先ツ以テ此點ニ付協議ヲ纏メ右協定ノ見込立チタル後隻數、艦型、艦齡等ノ問題ニ移ルコトヲ適當トスヘキニ付米國側ニハ右趣旨ニテ可然應酬スヘキ」旨訓令スル所アリ十二月十八日大統領晚餐會後若槻全權ヨリ我方ハ主力艦ニ關シ艦齡延長、艦型縮小、代換期間ノ延長等ニヨリ之カ縮減ヲ行フコト然ルヘシト考ヘ居ル旨ヲ傳ヘタルニ對シ米大統領ハ米國ハ一九三六年迄代換ヲ延期センコトヲ希望スルモ英國之ニ反對ニシテ工業力ノ關係上成ルヘク製艦ヲ毎年平均ナラシムルヲ必要ナリト主張シ居ル旨ヲ答ヘタリ其後十二月二十一日出淵大使「キヤツスル」大使ニ面會ノ際同人ハ米國政府ニ於テハ主力艦ノ艦型縮小ハ英國ニシテ「ロードネー」「ネルソン」ヲ廢棄スル決意ヲ示ササル限相談ニ應スル餘地ナシ隻數減少ニ付テハ必スシモ熱心ナル譯ニハ非ス要スルニ米國政府トシテハ日本政府ノ主張スル代換延長及艦齡延長ニ依リ國費ノ節減大ナルモノアルヘキニ鑑ミ此點ハ日米一致シテ達成セサルヘカラサル旨ヲ述ヘ出淵大使ヨリ隻數減少ハ日本ニ取り容易ニ同意シ難キ旨念ヲ押シタリ

同十二月十八日
大統領晚餐會後
若槻全權
出淵大使
「キヤツスル」
「ネルソン」
會見

第四節 佛伊兩國ノ態度

(一) 佛 國

一月十四日
在英佛國大使談話

在英佛國大使ハ一月十四日若槻全權ヲ來訪ノ際英佛内交渉内容ノ一部トシテ同國ハ主力艦單艦噸數ヲ半減（一萬七千五百噸）シ其備砲ヲ十二吋ニ引下ケ得ルモノト思考シ居リ又主力艦艦齡延長ニ異議ナキモ華府條約ニ基ク主力艦起工ノ權利ハ之ヲ保留セントスルモノナルコトヲ傳ヘタルカ二月十三日附佛國全權聲明ニ於テハ佛國カ新型戰艦出現ノ結果未タ代換ノ權利ヲ行使シ居ラサル七萬噸ノ一部ヲ以テ十二吋砲搭載ノ二萬噸乃至二萬五千噸主力艦一隻ヲ建造スルノ餘儀ナキ旨ヲ述ヘ且前記新型戰艦建造セラルルニ於テハ一九三六年末以前ニ右七萬噸ノ全部ヲ起工スルノ已ナキニ至ルヤモ知レサル處佛國ハ右留保ノ下ニ一九三六年迄ノ海軍休日ニ同意スル旨ヲ掲ケタルニ止リ他ノ諸點ニ付テハ何等具體案ヲ示サス

(二) 伊 國

二月十九日
伊國全權聲明

一月二十六日伊國「ビシヤ」大佐豐田大佐ヲ來訪シ今次協定ノ結果主力艦艦型及主砲口徑縮小ノコトナルモ十六吋砲艦二隻ハ建造ノ權利ヲ放棄シ得サルコト及主力艦保有量縮小ニハ反對ナルコトヲ述ヘタルカ二月十九日附同國全權聲明ハ單ニ一九三六年迄ノ代換延期ヲ提議シ他締約國ニシテ伊國ト同様ナル義務ヲ受諾スルニ於テハ伊國ハ代換ノ權利ヲ行使シ居ラサル十萬五千噸ヲ起工セサルヘキコトヲ述フルニ止リ何等艦齡、艦型、備砲等ニ付提案スル所ナカリキ

第五節 米 國 試 案

二月四日
日米會談
英米交渉
中主力艦
ニ關スル
「リード」
談話
(海軍問題)

二月四日若槻、財部、松平三全權「スティムソン」「リード」「モロー」三米國全權ト會談ノ際英米交渉ノ内容トシテ「リード」全權ノ語レル所中主力艦ニ關スルモノ左ノ如シ

一、米國側ハ英國側ニ對シ英國ハ現有二十隻中五隻（「アイアン、デューク」「エムペラ、オブ、インディア」「ペンボ」「マバーラ」「タイガー」）米國ハ十八隻中三隻（「フロリダ」「ユター」「アーカンソー」）日本ハ金剛ヲ「スクラップ」シ以テ一九三六年ニ達スヘキ隻數一五、一五、九ヲ出來得ル丈速ニ實現シ度シ但シ各國共一、二隻ヲ武裝解除ノ上標的及訓

(海軍休日問題)

練ニ使用スルハ差支ヘナキコトシ度シト提議セルニ對シ「マクドナルド」首相ハ右ハ結構ナルカ技術上ノ理由ニヨリ今年中ニハ實行困難ナルモ明年末迄ニハ可能ナルヘシト思考スル旨ヲ答ヘタリ

二、海軍休日ニ關シテハ昨年夏「フリーヴァー」「マクドナルド」間會談ニ於テ「マクドナルド」ハ失業問題ノ關係上「半休日」トナシ度キ希望ナリシカ二月三日ノ話ニテ「マクドナルド」モ「全休日」ヲ決行スルニ同意シタリ斯クスル結果ハ失業問題ヲ一層深刻ナラシメ現内閣ノ倒壞ヲ招クヤモ計リ難キモ其ノ運命ヲ賭シテ之ヲ斷行スヘキ堅決意ヲ示セリ

(英米勢力均衡問題)

三、昨夏「フリーヴァー」「マクドナルド」會談ノ際「フリーヴァー」大統領ヨリ華府會議後英國ニ於テ「ロドニー」「ネルソン」ヲ建造シタル爲勢力ノ均衡ヲ失シタル點ヲ指摘セルニ對シ「マクドナルド」首相ハ然ラハ米國側ニ於テ舊艦二隻ヲ廢棄シ新ニ「ボスト、ジュットランド」型二隻ヲ建造スルコトトシテハ如何ト申出タルカ米國海軍側ニテハ二隻ニテハ強キニ過クルヲ以テ一隻ヲ代換スル「オブション」ヲ保有スレハ可ナリトノ意見ナリ尤モ右ハ經費ノ問題モアリ又議會ニ於テ協賛ヲ與フルヤ否ヤ不明ナルニ付實現セサル可能性多分ナリト述ヘ右ノ場合米國側ニテハ如何ナル艦ヲ廢棄スルヤトノ財部全權ノ質問ニ對シ「ワイオーミング」ナルヘシト答ヘタリ

(隻數減少)

四、主力艦建造費ハ一隻ニ付米國四千萬弗以上英國七百五十萬磅ヲ要シ之カ維持費モ亦年二百萬弗ニ達シ從テ之カ隻數減少カ莫大ナル節約トナルヘシ

日米全權意見交換

右會談ニ於テ「リード」ヨリ主力艦一隻廢棄ニ付我方ノ意向ヲ質ネタルニ付若槻全權ハ隻數大ナルニ於テハ猶防衛ノ見込ナキニ非ルモ隻數下ルニ於テハ實力ノ比較取レス危險ヲ感スルニ至ルヘケレハ右ハ國論ノ一致シテ否認スル所ナリト答ヘ又隻數減少カ莫大ナル節約トナルヘシト點ニ關シ若槻全權ヨリ艦型縮小ニ伴フ經費ノ節減モ亦重要事項ナリト考フル旨述ヘタル處「リード」ハ噸當リ建造費ハ艦型ノ小ナルニ從ヒ遞増スルモノナルカ故ニ艦型縮小ニヨル節約ハ噸數ニ比例セサルノ嫌アリ然カノミナラス一九三六年迄完全ナル休日トスル以上同年迄ハ艦型縮小問題ハ全ク「アカデミック」ニシテ次ノ

會議ニ持越スモ差支ヘナシト考フル旨ヲ答ヘ尙實ハ英國側ハ艦型縮小ヲ希望シ米側ハ之ニ反對ナル爲右様決スルコト最モ然ルヘシト考ヘ居ル次第ナリト説明セリ

次ヲ財部全權ヨリ英米間主力艦調節ノ爲「ボスト、ジュットランド」型一隻ヲ建造セラルルコトナラハ日本ノ一部ニ危惧ノ念ヲ起サシムルノ虞アリト云ヘルニ對シ「リード」全權ハ自分一個ノ考ナルカ日本モ同様ノ「オブション」ヲ保有セラルルモ一案ニ非ズヤト答ヘ「スティムソン」「モロー」兩全權モ之ヲ默認セル態ニ見エタリ

二月五日
米國「デ
レゲーシ
ン」試
案

越エテ翌五日米國「リード」全權若槻全權ヲ來訪シ米國「デレゲーション」試案ト題スル米國側海軍縮案ヲ手交シタルカ右試案中主力艦ニ關スル部分ハ大體前日我方ニ語レル所ヲ個條書トナセルモノニシテ左ノ如シ

(イ) 華府條約代換表ハ次ノ原則ニ依リ左ノ通修正ス

(1) 一五、一五、九ノ總計ニ達スル迄舊艦ヲ直チニ廢棄スルコト

(2) 左記(ニ)ニ掲クル場合ヲ除クノ外一九三六年十二月三十一日以前ニハ新艦ヲ起工セサルコト

(3) 各國ハ練習又ハ標的用トシテ二隻ノ舊艦ヲ保有シ得ルコト但シ右舊艦ハ華府條約ノ規定ニ從ヒ戰闘用ニ供シ得サル狀態ニ置クコトヲ要ス

(ロ) 噸數ハ華府基準噸ニ依ル「アイダホ」「ミシシッピ」及「ニュー、メキシコ」ノ各艦ニハ將來ノ改裝ヲ可能ナラシムル爲三千基準噸ヲ加ヘタリ

(ハ) 主力艦代換ノ爲何等カノ規定ヲ設クルニ於テハ各國ハ代換セサル場合ニハ舊噸數ヲ保有シ得ヘク該噸數代換ノ權利ハ右延期ニヨリ喪失スルコトナシ

(ニ) 「ロドニー」及「ネルソン」トノ均衡ヲ圖ルコトニヨリ華府條約ノ考慮セル主力艦噸數ノ窮極ノ均勢ヲ今日實現センカ爲米國ハ三萬五千噸戰闘艦一隻ヲ一九三三年ニ起工シ一九三六年ニ之ヲ竣工スルヲ得ヘク右竣工ノ上ハ「ワイオミング」ヲ廢棄ス米國カ右「オブション」ヲ行使スル場合ニハ日本ハ主力艦一隻代換ニ關シ同様ノ「オブション」ヲ有ス

ヘシ

(ホ) 現有艦改裝ニハ仰角増大ヲ含ムモノトス

(ヘ) 以上ノ原則ハ實質上左ノ結果ヲ生ス

米 國

一、廢

棄

「フ ロ リ ダ」

二一、九〇〇基準噸

「ユ タ ー」

二二、〇〇〇

「アーカンソー」

二六、一〇〇

計

七〇、〇〇〇

二、現有總噸數

五三二、四〇〇

一九三〇年乃至三一年廢棄

七〇、〇〇〇

一九三六年一月一日現在勢力

四六二、四〇〇

一九三六年ニ「ワイオミング」廢棄

二六、〇〇〇

差 引

四三六、四〇〇

新艦一隻

三五、〇〇〇

計

四七一、四〇〇

英 國

一、廢 棄

「アイアン、デューク」

二六、二五〇

「マ　　ー　　バ　　ラ」	二六、二五〇
「エンペラ、オブ、インディア」	二六、二五〇
「ベ　　ン　　ボ　　ー」	二六、二五〇
「タ　　イ　　ガ　　ー」	二八、九〇〇
計	一三三、九〇〇

二、現有總噸數

一九三〇年乃至三一年廢棄	六〇六、四五〇
一九三六年十二月三十一日迄ノ殘存勢力	一三三、九〇〇
	四七二、五五〇

日　　本

一、廢　　棄

金　　剛	二六、三三〇
------	--------

二、現有總噸數

一九三〇年乃至三一年廢棄	二九二、四〇〇
一九三六年十二月三十一日迄ノ殘存勢力	二六、三三〇
	二六六、〇七〇

第六節　英國政府覺書

二月七日
英國覺書

二月六日米國側ニ於テ右試案ニ關スル聲明ヲ發表セルニ次テ二月七日英國政府亦今回會議ニ於ケル同國政府ノ態度ニ關シ覺書ヲ出シタルカ其中主力艦ニ關スル部分左ノ如シ

「主力艦ノ艦型及隻數問題ニ付テハ英國政府ハ華府條約規定ノ隻數ハ一九三六年ヲ待タス倫敦海軍會議ニ於テ締結セラ

レタル條約ノ批准後十八ヶ月以内ニ到達セラルヘキコト、一九三五年ノ次回會議以前ニハ現有艦ノ代換ヲ行ハサルヘキコト及其レ迄ノ間ニ主力艦保有各國間ニ於テ主力艦問題全部即チ其ノ隻數、艦型及備砲口徑ニ付交渉センコトヲ提議ス政府ハ華府條約ニヨル均衡從テ安全ヲ覆スコトナクシテ縮少ノ實ヲ舉クルニカムヘシ英國海軍省ハ政府ニ對シ艦型ヲ三萬五千噸ヨリ二萬五千噸ニ艦齡ヲ二十年ヨリ二十六年ニ延長スルニ贊成ナル旨ヲ通報シ來レリ政府ハ會議散會前本件ニ付意見ノ交換ヲ歡迎スヘク他ノ如何ナル艦種ニ付テ見ルモ是以上平和ノ要求ニ合致シ經費ノ節減ヲ實現スル好機ナカルヘシ英國政府ノ所見ニヨレハ主力艦ハ其巨大ナル艦型及經費並ニ空中及水中ニ於ケル攻撃力ノ發達ニ鑑ミ效力疑ハシク政府ハ主力艦カ相當期間内ニ世界ノ艦隊ヨリ全部消滅スルカ如キ協定成立ヲ見ンコトヲ希望ス」

第七節　帝國試案

二月十二日
帝國試案

續イテ二月十二日松平全權ハ「リード」全權ヲ往訪海軍々備制限ニ關スル帝國試案ヲ手交シ米國側ノ考究ヲ求メタルカ右帝國試案中主力艦ニ關スル部分左ノ如シ

一、一九三五年末前ニハ主力艦ヲ起工セサルコトトス

（建造延期ハ一九三五年迄ナリヤ一九三六年迄ナリヤニ付テハ訓令ニ疑義アリシヲ以テ帝國試案ハ之ヲ一九三五年トナシタリ本件ハ其後海軍隨員ヨリ請訓セル處一九三六年末トナシ差支ナキ旨海軍省ヨリ回示アリタリ）

二、主力艦艦型、備砲及艦齡等ニ關スル制限ノ協定ヲ遂クルコト

（イ）艦型ハ二萬五千噸迄備砲口徑ハ十四吋迄ノ範圍内トス

（ロ）代換艦齡ハ將來舊艦ノ代換トシテ建造セラルヘキ新艦ニ對シテハ二十六年迄ノ範圍ニ於テ延長シ既成艦ニ付テハ代換開始期代換期間ニ關聯シテ之ヲ協定ス

（ハ）華府條約ニ規定スル現代換表ハ代換開始期ノ延期及代換期間ノ伸長ニ伴ヒ改訂セラルヘキモノトス

(二) 華府條約ニ規定セラレタル隻數ハ變更セサルモノトス

一八六

第八節 日米試案提示後ノ日英米交渉

一、安保「リード」會談

米國側ニ於テハ二月五日ノ米國試案ハ我方ノ立場ヲ相當考慮シタルモノナリト考ヘ居ルモノノ如クナルヲ以テ我方主張ノ理由アル所以ヲ充分米國側ニ了解セシムル爲メ安保顧問及樺山伯ハ二月十三日「リード」ト會見セリ其際安保顧問ハ金剛級一隻ト「フロリダ」級三隻トハ砲力射距離速力ニ於テ格段ノ差アリ極言スレハ第一線ニ立チ得サル舊式戰艦三隻ノ代リニ第一線ニ立チ且航空母艦大型巡洋艦等ニ對シテモ大ナル威力ヲ有スル高速主力艦一隻ヲ條約規定ノ時期ニ先チ廢棄スルコトナリ日本側ニ不利ナリト仔細ニ説明セル處「リード」全權ハ日本ノ理由ノアル所諒解セリ充分研究スヘキモ米國ハ元來英國ニ對シ眞ノ主力艦均勢ヲ要求スルモノニシテ之カ爲メ主力艦建造延期ト舊艦廢棄トハ勢力均衡實現上不可分ノモノト考ヘ居ル次第ナリ尙日本側ニテ希望セラルルニ於テハ金剛ノ代リニ山城級戰艦一隻ヲ廢棄セラルルモ苦シカラスト思考スル旨ヲ述ヘタルニ依リ安保顧問ハ山城級ト雖モ速力以外ハ金剛級ヨリ有力ナル旨ヲ述ヘタリ更ニ「リード」ハ米國ハ主力艦制限ト補助艦制限トハ不可分ニシテ一方ノミヲ成立セシムルコトハ絕對ニ同意シ能ハサル旨ヲ述ヘタリ

二、日英米全權內協議

越エテ二月十七日米國側發意ニヨリ日英米三國全權內協議開催セラレ米「リード」全權日本案ニ對スル米國側所見ヲ述ヘ主力艦ニ關シ「イ」英米側ハ一九三六年迄製艦休日ヲ提唱シ日本ハ一九三五年末ト云ヒ大體意見合致セルヲ欣フ「ロ」但米案タル一五一一五九實現ノ爲戰艦ヲ廢棄スル點ニ付テハ言及シアラサル所右ニ關シテハ二月十三日安保顧問ト會談ノ際「一參照」日本側ニ於テハ金剛ノ廢棄ヲ好マサル様承知セルカ米國トシテハ金剛ニ限ラス何レカノ一隻ヲ廢棄スレハ

二月十三日安保「リード」會談(軍艦一隻廢棄問題)

二月十七日英米全權內協議

帝國側ノ反對ニ對シ米國側ノ意向

若槻全權ノ主力艦對廢棄反對表明

米國ノ新主力艦建造案撤回問題

帝國ノ主力艦廢棄案(二月十七日帝國政府訓令)四月二日日英米全權會議

足レリト考ヘ居リ尙米國ハ右廢棄ト製艦休日トハ不可分ニシテ「一」ヲ棄テ他ノミヲ取ル可カラスト考フ加之戰艦ニ關スル之等華府條約ノ改變ハ補助艦制限ト不可分ニシテ其一方ヨリ節約シ得タル資金ヲ以テ他方ノ充實ニ充ツルカ如キハ當ラ得タルモノニ非スト思考ス「ト述ヘ之ニ對シ若槻全權ハ「日本ハ戰艦廢棄案ニ付テハ華府條約ノ根底ヲ動カササルヲ緊要トスルノ見地ヨリ容易ニ同意シ難シ右條約ハ關係國間ニ於ケル勢力ノ釣合ヲ充分ニ考量シテ年々ノ代換表ヲ作成シ居ルモノナルヲ以テ之ヲ其儘維持スルコト最モ至當ナリト思考ス主力艦ニ於ケル經費ノ節約ハ艦型縮少艦齡延長ヲ以テ之ヲ計ルコト然ルヘシ」ト應酬シ「リード」全權ハ更ニ「廢棄案ハ英米ニ於テ最モ多キ犧牲ヲ爲サムトスルモノナルノミナラス英ノ「タイガー」ノ如キハ大體金剛ト同艦種ノミナラス速力ニ於テ之ニ優レリ」ト述ヘ若槻全權ハ「日本ハ華府條約ヲ忠實ニ遵守セムコトヲ欲スルモノニシテ右精神ヨリ規定ノ釣合ヲ維持シ代換ノ際艦型ヲ縮少スルコト及休日ノ設定ヲ以テ縮減ノ實ヲ舉ケムコトヲ考ヘ居ルモノニシテ今日之カ廢棄ヲ企テ單艦勢力ノ比較論ヲ招ク時ハ徒ラニ事ヲ紛糾セシムルノ處アリ」ト反對セリ

三、米國ノ新主力艦建造案取止メ

二月五日米國試案中「ボスト、ジュットランド」型戰艦一隻建造ノ件ニ付テハ我方ハ縮減ノ趣旨ニ悖ルノミナラス將來ニ於ケル艦型縮小ヲ困難ナラシムル素因ヲ作ルモノトシテ絕對反對ノ決意ヲ有シタル處米國全權側ハ英國側ノ反對アリ日本側ニ於テモ亦斯ノ如キモノヲ建造スルノ意思ナキ様子ニモアリ又米國內ニ於テモ諸新聞ノ強烈ナル反對及國務省モ不同意ナル趣報セラレタルニ依リ遂ニ右建造要求ヲ取止ムルコトトナシタリ

四、帝國ノ主力艦廢棄應諾

前顯ノ如ク我方ハ主力艦廢棄ニ付テハ華府條約ノ根底ヲ動カスモノトシテ一應之ニ反對シタルモ二月十七日主力艦問題ニ關シ我カ現有十隻ヲ華盛頓條約協定隻數九隻ニ減スル事ハ全權ノ裁量ニヨリ應諾差支ナキ旨特ニ訓令アリタルヲ以テ四月二日日英米三國全權會議ノ際「リード」全權ヨリ本件ニ言及アリタルニ對シ若槻全權ハ日本ハ之ニ同意スル意向ナリ

一八七

ト答ヘ三國妥協案確認ノ書付ケノ條項ノ最後ニ「並ニ一五——一五——九迄廢棄ニ關スル協定」ナル文句ヲ挿入スルコトトシ更ニ「リード」全權ノ間ニ對シ若槻、財部兩全權ハ日本ノ廢棄スル艦ハ果シテ金剛トナルヘキヤハ不明ナルモ金剛型ノ何レカノ一艦ヲ擇フコトトスヘシト答ヘ英米側ハ無論右ニテ差支ナシト述ヘタリ（其後我方ヨリ比叡ヲ指定セリ）

五、代換建造延期

代換建造
延期
帝國政府
訓令

帝國政府ノ同訓ニハ「佛伊ノ參加ヲ見サル場合ニ於テモ日英米三國ハ本假協定ノ趣旨ニ依リ海軍條約ヲ締結スル決意ヲ有スルモノニシテ右條約ハ主力艦代換建造延期ニ關スル三國間ノ協定ヲ包含ヘキモノト諒解ス」

四月二日
日英米全
權會議

ノ一項アリ右ハ前記四月二日ノ三國會議ニテ「本條約ハ又主力艦ニ關スル海軍休日ノ設定ニ付テノ協定ヲ包含スヘシ」トノ形式ニテ確認セラレタルカ本件ハ其後何等問題ナク條約委員會及第一委員會ヲ經テ第五回總會ニ依リ採擇セラレタリ

第九節 艦 齡 問 題

四月十日
日英米全
權會議

艦齡及艦型ニ關シテハ其後何等ノ討議ヲ見ス四月十日日英米全權會議ニ於テ若槻全權ヨリ主力艦ノ艦齡艦型問題ハ次回會議ニ讓ル趣旨ナリヤト尋ネ「ステイムソン」ハ艦齡問題ハ休日案ニ包含サレ居レリト答ヘ若槻全權ハ事實上ハ洵ニ其通ナルモ主義トシテ二十六年トハナラス夫ニテ差支ナシトノ意向ナリヤト問ヒ「ステイムソン」及「リード」ハ其點ハ次回會議ニテ解決シ遅カラスト答ヘ松平全權ヨリ若シ補助艦ニ付艦齡ヲ定ムルナラハ主力艦航空母艦ニ付テモ之ヲ定メ置クコト然ルヘク然ラサレハ巡洋艦ト主力艦トノ艦齡何レモ二十年トナリ軍縮ノ精神ヨリ見テモ體裁ヲナササル嫌アリ之ヲ二十六年ト規定シ置クコト然ルヘキニ非サト提言シ「リード」ハ之ニ贊シ萬一八九三五年ノ會議力不成立ニ終ル場合ニ於テ艦齡ヲ現在ノ儘トナシ置カハ直チニ翌年ヨリ建艦ヲ必要トスルニ至ルヘシト述ヘ「ステイムソン」全權ハ代換表ヲ研究セサレハ不明確ナルモ其ノ翌年ヨリ建艦ノ必要ナカルヘシト云ヒ若槻全權ハ今強テ同意ヲ求ムル次第ニ非ルモ巡洋艦主力艦ノ艦齡ヲ

同シクナシ置クカ如キハ街頭ノ人ヨリ不注意ナリシトノ批難ヲ招クノ虞アリ代換表ノ點ハ兎モ角艦齡ノ點丈ケハ明記スル方可然シト考フト述ヘ「ステイムソン」全權之ニ同感ノ意ヲ表セリ然ルニ本件ハ華府條約規定事項ニシテ五國ノ同意ヲ得スルハ最後ノ決定ヲ爲シ得サル關係ニアリ而シテ佛伊側ハ二十年ノ艦齡ヲ延長スルコトニ同意ヲ肯セス英米側ニテハ休日ヲ設定スル以上必スシモ之ヲ強調スルノ必要ナシト唱ヘ條約委員會及起草委員會ニ於テ我方ヨリ己ムヲ得スルハ三國丈ノ協定トシテ條約中ニ包含セシメムコトヲ主張シタルモ英米側ヲ同意セシムルコト能ハス結局一九三五年會議ノ問題ニ讓ルノ外ナキ事態トナレリ